

# 霧の会

地唄舞公演

## 「菊の露」「珠取」

### 「菊の露」

重陽の節句には菊花に宿る露で身を拭い、長寿を願うと云われておりますが、この山は日々菊を眺め、今は逢う事の叶わぬ人を憶い秋風と共につのるせつなさを描いております。袖香爐と共に追善の曲として舞うことも多い曲で、文楽や歌舞伎の『壱阪靈験記』の幕開きに主人公がつま弾いている山としても有名です。

### 「珠取」

讃岐国志度寺縁起、藤原房前の出生譚、藤原氏の女性が唐の后になったという伝説、海底に奪われた宝物を取り返す海人の伝説、後に房前の大が志度寺に寄進をした事など藤原氏にまつわる故事や伝説を題材として作られ、命を犠牲にして我子の幸せを願う、母である海女が竜宮から宝珠を取り返すまでの様子を亡霊となって我子に語る「玉ノ段」は、独立した仕舞としても上演されています。

地歌の「珠取」は、これを本歌にしてつくられた曲で、神崎流では前段の道行きを省き志度の浦を訪ねた我子の前に海女の亡霊があらわれ白らの物語をかたり始めます。宝珠を海中より取り返す様子を語り、消えて行く迄を初代恵舞が振り付けし、最後は能とはまた趣の少し違うものになっております。

舞.....神崎えん 地唄.....富山清琴

四世家元神崎えんは、昭和10年に神崎恵舞が創流した舞の流派「神崎流」家元を父である三世宗家秀珠より平成11年に襲名。昭和27年より続く「神崎流地唄舞研究会」を同年第55回から引き継ぎ主催。昭和53年より自身の「霧の会」を毎年主催。平成25年より勉強会講演を主体に「地唄舞研究会」を渡辺保氏などの協力を得て年数回主宰今日に至る。国立劇場主宰「舞の会」、紀伊国屋ホール主宰公演等外部出演、海外公演等各種公演出演。一般社団法人神崎流としての活動として流儀主催のワークショップなどを催し、東京の舞の流儀として啓蒙発展後継の育成に努めている。

#### 舞について

日本の古典舞踊には「舞」と「踊」があります。「舞」は14世紀に現在の様式の礎を確立したといわれる「能」の動きにも見られるように、舞台を廻って旋回する動きを指します。「踊」は17世紀に興った「歌舞伎」を基本として、陽気に解放的に跳躍する動きを呼びます。この「舞」を座敷で地唄を伴奏として舞うのが「地唄舞」です。関西を中心に発達しました。特徴としては少ない動きとゆったりとしたテンポで、その「こころ」を表現することが挙げられます。神崎流は、初代が大坂から東京に移り創流、その後四代目の神崎えんまで引き継がれた東京で生まれたただ一つの地唄舞の流儀です。

平成30年10月23日(火)

19時開演(18時半開場)

## 国立劇場小劇場

前売開始：8月15日(水)

チケット料金：8000円(全席自由)

チケット取扱：080-1063-3283(担当田村) FAX: 03-3405-7190  
jiutamaikanzaki@yahoo.co.jp  
国立劇場チケット売場(窓口販売のみ)

お問い合わせ：080-1063-3283(担当田村)

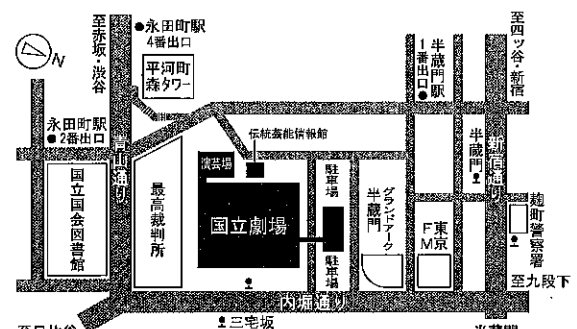
神崎流 HP : <http://kanzakiryuitemoto.com/>

地唄.....富山清琴

三弦・箏・胡弓演奏の第一人者。幼少から父の富山清翁(人間国宝・文化功労者・芸術院会員)に古典的な方法で教育を受ける。東京芸術大学卒。文化庁芸術祭賞(昭和60年、平成元年、平成3年)、平成9年には清栄会奨励賞を受賞。平成12年に富山清隆から富山清琴を襲名、平成16年日本芸術院賞受賞、平成21年重要無形文化財保持者(人間国宝)認定。平成23年紫綬褒章を受章。

#### 地唄について

江戸時代の三味線音楽の発達には目覚ましいものがありました。三味線音楽の中でも、個人の住宅の座敷で演奏されてきたものが「地唄」です。特定の観客に向けていわゆるサロンで演奏される室内楽と申せましょうか、地唄は、畳、木と紙の障子、土壁の部屋の中で、暮夜には、またたく熾爛の灯影で、演奏されました。主に関西を中心に発達、演奏のスタイルとしては、演奏者が一人で唄い、三味線を弾く弾き唄いの形が普通です。琴、胡弓の伴奏が入る場合もあります。



- 至日比谷
- 地下鉄 半蔵門線(半蔵門駅)1番出口徒歩5分  
有楽町線・半蔵門線・南北線(永田町駅)4番出口徒歩8分・2番出口徒歩10分
- 都バス 都03(晴海埠頭一四ツ谷駅前)三宅坂徒歩1分  
宿75(新宿駅西口一河田町一四ツ谷駅前一三宅坂)三宅坂徒歩1分
- 駐車場完備